

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071601506		
法人名	医療法人 聖峰会		
事業所名	グループホームひまわり2号館		
所在地	福岡県久留米市善導寺町飯田1393-9 (電話) 0942-23-3662		
自己評価作成日	令和 6 年 2 月 5 日	評価結果確定日	令和 6 年 3 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

田園に囲まれた閑静な住宅地にある木造1階建ての穏やかな施設として、申込みに来られる方に喜ばれています。グループホームという名の通り、入居者の皆さまにはご自身の家の様に自由に、そして暖かい雰囲気の中で生活して頂けるように努めています。

その方にあった生活スタイルの模索に力を入れ、笑顔あふれる賑やかな職員と一緒に楽しく活動をしています。毎月、季節にあったイベントを開催しており、来年度からはコロナ禍で出来ていなかった家族会の開催も視野に入れ、入居者様とご家族様が楽しく、この施設で良かったと思って頂けるように日々考えております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 6 年 3 月 1 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は国道から少し入ったところの自然豊かな環境の中にある。隣にある特別養護老人ホーム、認知症対応型通所介護事業所とは運営推進会議や行事などを通じて協力体制を構築している。近隣に保育園もあり、子どもの笑い声が聞こえ、散歩の途中で会うこともある。コロナ禍ではできなかった年2回の家族参加のイベントの実施に向けて検討を行い、毎月の行事開催も計画され、利用者の楽しみになっている。母体である病院との連携もあり、健康管理や医療面での安心もある。職員は利用者との交流の時間を大切にして、毎日の生活の中で笑い声があり、塗り絵や利用者同士でパズルの作成、動画を利用したりハビリ運動が行われている。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「地域のために、地域とともに」事業所理念「常に感謝の気持ちを忘れずに、全ての絆を大切に楽しく支え合い、一歩前進を目指します！」朝礼時の理念唱和实施。地域行事への積極的な参加を心掛けています。	法人、事業所の理念は、事業所内に提示し、朝礼時に唱和している。されて当たり前ではなく「ありがとう」と声に出して伝えること、安心できる日常生活を支えることや、地域を巻き込んだ行事を行い、地域に根付いた事業所となり支え合える関係になるように、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍となり、地域行事への参加が出来ていない状態となっています。令和6年度は、以前開催していた3事業所合同の餅つき会を再開する予定です。また、感染症の流行状況にもよりますが地域行事への参加も再開していきたいです。	道路やお宮の掃除等の地域活動に職員が参加している。夏に事業所主催の打ち上げ花火を行う際には、地域各戸へお知らせを入れ、それぞれの場所から楽しんでもらえた。コロナ禍前は近くの保育園からお神輿が来ることもあった。近所に住む利用者の知人が事業所へ立ち寄ることもある。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方からの介護についての相談、問い合わせを受けた場合は、各介護サービスの内容説明、関連機関への紹介など行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、近隣施設である第2ひじり園様とあじさい様と合同で開催する事によって様々な視点から意見交換を実施しています。通常であれば、ご家族様にも参加して頂きますが、今年度は開催日を固定する事が出来なかったため出来ておりません。来年度はご家族様にも参加していただきたいと思っています。	2ヶ月に1回、運営推進会議を実施している。ヒヤリハットや感染症、身体拘束、利用者状況、サービス報告等を行っている。行政から身体拘束適正化対策委員会では、ただ拘束をしていないというだけでなく、事例検討を行ってはどうかと提案があり、検討を行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の運営についての不明点はすぐに問い合わせをさせていただいております。また、地域包括支援センターと民生員の方にも運営推進会議に参加をいただき協力関係を築いております。	日頃から行政や地域包括支援センターの窓口へ出向いたり電話をしたりして、利用者の入れ替わりや空床情報、運営について相談を行っている。利用者の紹介や問題解決に助言いただくこともある。今後は定期発行しているお便りを窓口へ持参して、より協力関係が築けるよう取り組む予定である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠は実施しておりません。年2回の研修の確実な実施には、オンライン研修も活用しています。身体拘束は行わない方針で日々のケアに取り組んでいます。	毎日のミーティング時に「身体拘束をしていない」ことを確認をしている。職員は研修を受けて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関や居室は日中は施錠していない。外出傾向のある利用者には見守りや付き添いを行い、近所の方と散歩中に会った時は、見守りや声がけや連絡をしてもらえるように理解を求めている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束と共に虐待についても同様に研修を行っています。また、職員同士での声掛けや見返りを行いながら対応しています。職員全体の精神・身体的負担の軽減の面から極力残業はなくし、業務改善にも取り組んでいます。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「本人主体のケア」を常に念頭に置き接する事が出来る様に、支援の在り方などミーティングや勉強会を通して学ぶ機会を作っています。	利用者の思いを汲み取り、希望に沿った支援をするよう努めている。権利擁護に関する制度に関しては、管理者が必要に応じて面会室に設置しているパンフレットを使用して説明を行うようにしている。職員は制度について研修等で学ぶ機会がない。	権利擁護に関する制度について、外部研修に参加したり、内部研修を実施する等、職員が理解を深める機会を設けてほしい。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際には、本人様・ご家族様に分かりやすいように丁寧に説明を行います。時間はかかりますが、特に契約時にはしっかりと説明を行う事で安心感と信頼にも繋がると思っています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からは、面会時にご本人様の様子をお伝えすると共にご要望やご意見などお聞きしています。外部の方へは、地域運営推進会議を通して事業所の現状報告を行っています。	利用者からは常に意見や希望を聞き取っている。特にモニタリングの時は「したいこと」を意識して聞くようにしている。管理者は家族の来訪時に声をかけて意見を聞くように心がけている。お便りの写真や、面会・外出・外泊等の要望を聞くこともある。定期的にお便りを出す時も「ご相談ください」と文言を必ず入れて、意見を言いやすいよう配慮している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで伝達事項等の周知の徹底と、日常でも職員と広く会話をし困っている事がないか等尋ねる様に心掛けている。また、改善が必要な事は全体ミーティングとは別にリーダーミーティング(不定期開催)などで協議する。	日頃から管理者は職員へ声をかけて、話をしやすいように工夫している。夕食時間や昼休み時間、早出遅出勤務等について、業務に関する相談も受けており、法人への相談やリーダーミーティング等を行って対応している。業務改善により職員と利用者が向き合う時間が増えたことや残業がなくなる等、運営に反映をさせている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、面談を実施。また、その都度職員との面談を行う事で、職員の状況を把握する様に努めている。職場の環境改善については、今一番力を入れている所です。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の要望には応えられる限りは対応して、働きやすさに繋がる様にしている。 採用時に求めている事は、業務へのやる気のみで、資格がなくても一から育成するという気持ちです。	採用に関しては、無資格でも仕事に対する姿勢ややる気を重視して採用を行っている。無資格で入職しても段階を追って指導を行っている。法人と事業所で交互に面談を行い、状況の確認を行っている。夜勤や日勤についても職員の状況に合わせたシフト調整を行い、働きやすい職場環境を目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月内部研修として各課題について学ぶ機会を設けている。情報収集の為、研修に参加したり、常に新しい情報を入手する様に心掛けています。	母体法人で行われる研修に参加している。また、外部研修を受けた職員が3月に伝達研修を行う予定にしており、職員全員が人権について学ぶ機会を作り、事業所は利用者の人権を尊重するための人権教育に取り組んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人のキャリアパス制度を活用し、人材育成に取り組んでいます。また、資格取得に関する手当もあり、学ぶ意欲を育てられるような環境作りを目指しています。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現段階ではコロナの影響から出来ていませんが、withコロナとして法人も動き出しており、人事交流を復活させる予定との事です。 グループホーム部会などの研修の参加も今年度は一度しかできませんでしたが、今後はもっと積極的に取り入れていきたいと思っています。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前は管理者が窓口になり、決定後は職員全体で入居者様の不安を払拭できるように顔合わせや面談を通して、少しでも早く馴染めるようにサポートしています。 ご家族様にも同様に協力頂き、初期の信頼関係構築に努めています。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様への説明も、ご本人様同様に不安がないように丁寧に分かりやすく説明する事を心掛けています。 入居者様を通じて、初期の信頼構築に努めると共に、ご家族様の要望に出来るだけ添える様に対応しています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や相談の時、ご本人様とご家族様の要望等を聴き、現在の状態を尋ねてホームに適しているかをまずはお話しさせていただきます。利用方法や必要であればほか施設へのご紹介も行っています。入居のご希望があれば申込書を記入してもらい対応しています。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームという名の通り、家だと思えるような家族のような関係を目指しています。一緒に生活をし、助け合っているという気持ちを大切にしています。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所による家族の隔たりをなくすためにも2ヶ月毎に入居の様子が分かるような写真が載った家族新聞を発行しています。また、面会時や電話連絡時には、必ずご本人様の状態をお伝えして、協力頂ける様にコミュニケーションも大切にしています。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔馴染の方が面会に来られることがあります。その際は、ご家族様に見せる顔とはまた違った表情をされるのでとてもうれしい事だと思います。特に制限は設けていませんが、キーパーソンのご家族様にご報告は行いトラブル防止にも努めています。	職員は利用者の昔の話を聞き、馴染みの場や人について聞くように努めている。知人がいつ来ても面会ができるようになっている。電話で話をしている際も、困っている様子が見えなければ介入をすることなく見守っている。かかりつけ医の受診支援時に利用者の地元を通ると、懐かしんだり病院で知人と会うこともある。馴染みの人や場が途切れないように支援を行っている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さまが自由に交流を持てるように、ユニット間の隔たりをなくしています。隣のユニットへお話しに行かれる方もおられます。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入所中に出来た関係を大切に、いつでも気軽に相談が出来る様に最後にお声掛けさせていただきます。また、近隣施設でお会いした時にも笑顔で挨拶を頂けるような関係を築いています。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人様の要望を踏まえたケアプラン作成に努めており、日常で引き出したご本人様の気持ちなどは記録や申し送りで残すことで、ご本人様との関わりに役立っています。	職員は日々の関わりの中で積極的に利用者に声かけを行い、利用者の思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者については、表情から思いを汲み取ったり、家族から話を聞いたりしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の把握は、ご本人様の話からはもちろん、ご家族様や面会に来た方とも話をすることで得られるものがあります。縫物などその方が得意なものをレクリエーションとして取り入れる事もあります。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人を大切に、出来る事・できない事を職員全体で見極め、可能な限り出来るを維持するようにサポートしています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとりに担当を付け、担当を中心としてその人を思うケアを模索しています。カンファレンスでは、担当者以外の考えを広く取り入れその人のケアに活かしています。	日々の関わりの中で利用者や家族の思いや意見を把握し、介護計画に反映させている。毎月カンファレンスを行い、3ヶ月に1回、ケアマネジャーや担当職員によるモニタリングを行った上で、介護計画の見直しを行っている。見直しの結果については、その都度家族へ説明し、了承を得ている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日常生活の記録を行っている。職員全員が情報の共有を行い、統一したケアが行えるようにしている。また介護計画書の見直しや変更にも活用している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	長く続いた面会制限ですが、1月より緩和措置を取ることが出来る様になりました。また、外泊や外出の相談にも柔軟に対応できるようになり、ご家族様からは喜びの声も聞かれます。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホーム入所後も、デイケアに通われていた方が継続して利用する事もあります。馴染の場所を失うことなく、生き生きとして活動されています。近所に散歩や受診に行くときにお声掛けいただくこともあります。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	普段の状態をかかりつけ医に相談できるように、受診には看護師又は介護職員が付き添います。普段の状態を把握する事で、異変に早期に気が付くことが出来る様に連携を密に取っています。	入居前からのかかりつけ医や、利用者や家族が希望する医療機関の受診を支援している。受診は基本的に職員が同行支援している。家族が同行して受診する場合でも職員が付き添い、病状等を伝えている。職員の同行が困難な場合は、家族に対応をお願いしている。受診結果等の情報は常に家族と共有している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師が、ほぼ毎日健康管理をしています。介護職員も入居者様の健康に気を配り、異変に気が付き、看護師へすぐに相談できるような関係を築いています。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	2週間に1度、施設間ミーティングが開催され、入院中の情報はもちろん、入院がない期間も病院の動向に気を配ることが出来ます。ソーシャルワーカーとも連絡を密に取り、情報交換をする体制が出来ています。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にも重度化についての方針を説明する場を設けています。また、実際に重度化により退居になる時にも、ご本人様をはじめご家族様に不安がないように、情報の共有と次のサービスへの円滑な移行をサポートします。	重度化対応に関する指針を明文化しており、入居時に利用者と家族に説明を行って同意を得ている。早い段階から利用者や家族等と話し合いを行い、事業所が対応しうる最大の支援方法を検討している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルの作成、周知を行っています。看護師指導の元、応急処置などの初期対応はもちろん、万が一の事が起きても対応できるように備えています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練を行っているが、地域との合同訓練は実施できていません。自然災害に関しては、運営推進会議の時に関係者への協力依頼を行っている。	火災時の避難訓練は、昼間想定1回、夜間想定1回の年2回実施している。うち1回は消防署に参加協力を依頼している。地域住民には訓練参加の呼びかけを行っていない。また、災害対策マニュアルを作成していない。非常用食料・飲料水・ライト・カセットコンロ・簡易トイレ等の備品を事業所内に保管している。	火災・地震・風水害等に備え、地域及び事業所に即した具体的な災害対策マニュアルの整備をお願いしたい。また、非常時には地域住民の協力が不可欠なため、避難訓練を実施する際は、地域住民への呼びかけを行ってほしい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会を通し定期的に意識付けを行うことで、入居者様への尊敬の念を忘れず、一人ひとりを尊重して対応を行っている。	プライバシー保護に関する研修を行い、職員の意識向上を図っている。職員は常に利用者のプライバシーに配慮し、さりげない声かけや対応を心がけている。トイレ誘導の声かけは小声で行い、トイレのドアは必ず閉めている。入浴時は羞恥心に配慮し、利用者に体を隠すタオルを渡すなどしている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に何か希望がないかなど問いかける様にしています。自己決定が難しい方に対しては、表情や態度から希望を汲み取る様にしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りご本人様のペースにあった生活が実現できるように心掛けています。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きなものを着て頂ける様に、手の届きやすい所に衣類を準備する等の工夫をしています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に関しては外部発注となっている為、好きなものへの変更は難しいが、様々なメニューで飽きのこない食事を取れている。食器洗いなど手伝って頂ける方にはお願いし、一緒に行っています。	食事は完全調理済み食品を利用し、事業所内で加熱・盛り付けしている。利用者は食器洗いやお盆拭き等、片付けを手伝っている。利用者の希望は主としておやつに反映させ、利用者と一緒にホットケーキ等を作っている。ゆっくり食事を楽しめるよう、食事中はテレビを消し、クラシック等の音楽を流している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外注の食事を使用しています。栄養などバランスの取れた食事を提供できています。職員も同じものを食べる事で、美味しい物を食べれているか確認が取れる様に工夫しています。一人ひとりの状態に合わせて、食事の形態を変えています。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自力での口腔ケアを促すと共に、磨き残しがないか確認を行っています。歯ブラシ/スポンジブラシなど用いてその人にあった口腔ケアをしています。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在紙おむつを使用している人はいません。特に日中は、出来る限り全員トイレ誘導を行い気分よく排泄できるように心がけています。トイレの間隔が分かりにくい方は定時誘導を行い、訴えのある方はその都度トイレ誘導を行っています。	職員は利用者の排泄のパターンやサインを把握し、トイレ誘導を行っている。できる限りトイレで排泄できるよう支援しており、夜間もトイレ介助を行っている。現在、おむつが必要な利用者は全員パンツ式のおむつを使用している。おむつやパットの種類については常に見直しを行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常的に運動を取り入れる事で活動量を増やすと共に、水分不足対策に飲み物など数種類用意して好きなものを飽きなく摂取できるように準備しています。便秘については看護師指導の元、緩下剤でのコントロールを行っています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴を楽しんでもらえるように入浴剤を各種準備しています。血流増進などの為にも浴槽への入浴を状態に合わせて出来る限り支援しています。また、清潔保持の為その日の状況に合わせて入浴を実施する事もあります。	3日に1回の入浴を基本としているが、利用者の希望や状態に応じて、いつでも入浴できるようにしている。入浴を楽しめるよう、数種類の入浴剤を準備している。入浴を望まない利用者には無理強いせず、時間を置いて再度声かけしたり、別の職員から声かけしたりして入浴を促している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個室は自由に休んで頂ける様にいつでも開放しています。気分や状態に合わせてご自身の好きな所で休息を取ることが出来ます。ベッド周りなどは常に清潔に保つことで、いつでも気持ちよくお休みになれるようにしています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常勤の看護師を中心に服薬の管理を行っています。定期的な受診でもDrと相談しながら服薬調整を行って頂き、その人に必要な分の薬のみを処方して頂いています。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、集団レクリエーションの時間を設け、入居者様の毎日が楽しく輝いたものになる様に心掛けています。個別レクにも力をいれ、塗り絵などその人が楽しめるものを提供しています。 毎月のイベントも職員が試行錯誤し、日常とは少しだけ違う気分を味わっていただいています。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力を得て、外出・外泊に出る方もいらっしゃいます。難しい方は、散歩やドライブなどで外に出る機会を増やしています。 ご本人様の希望に沿って、散歩を実施する事もあります。	散歩は週1～2回行っている。ドライブはコスモスの花見など、年1～2回行っている。コロナ禍前は月1～2回買い物に出かけていた。外食で寿司やデザートを食べに行ったこともあるが、今は控えている。家族の支援による外出を再開しており、利用者が家族と一緒に結婚式に出席するなど、利用者だけでなく家族からも喜ばれている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の希望を聞き、嗜好品の購入を行う事もあります。しかし、自由な買い物とは言い難いのも現実です。 移動販売の検討をしているところです。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人の携帯電話を所持している方が3名いらっしゃいます。特に制限は設けず、自由に通話できる状態を作っています。 今年は全員で年賀状を送りました。携帯電話未所持の方も、ご希望があれば電話の取次ぎを行っております。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	元々木造作りで温かみがある空間ですが、さらに季節を感じられるように掲示物は季節にあったものを入居者様と一緒に作成しています。	共用空間は広々としており、歩行器や車いすでの移動もしやすい。掃除も行き届いている。居間には暖かな陽が差し込み、窓際で日向ぼっこをする利用者もいる。ソファやテーブル・椅子は、利用者がゆったりと過ごせるように配置されている。居間の壁には、おひな様の貼り絵など、利用者と職員が一緒に作った四季折々の作品が飾られている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたテーブル数の為、全ての要望をかなえる事が出来ているかは分からないが、気が合うかどうかは見ながら席を決めている。 ソファ一席もあり、特に自立の方たちは自由に使用されている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自室に入る物なら自由に持ち込みを許可しています。位牌を持ち込まれる方やずっと使っていたタンスを持ち込まれる方もいます。 また、ご自身の作品なども飾って楽しめる様に特に制限は設けていません。	居室には家をイメージした庇が取り付けられている。花や果物の写真付き表札が飾られ、利用者が自分の居室に愛着を持ち、認識もしやすくなるよう工夫されている。室内にはベッド、エアコン、洗面台が完備されている。テレビも完備されているが、大型テレビを持ち込んでいる利用者もいる。筆筒、家族写真など利用者の馴染みの物が持ち込まれている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内にはいたるところに手摺が設置されています。移動手段として、車椅子はもちろん歩行器などもあります。毎月、生活機能向上訓練の為、PT/OTとも連携を取り、その方に合わせた移動や訓練を行っています。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「地域のために、地域とともに」 事業所理念「常に感謝の気持ちを忘れずに、全ての絆を大切に楽しく支え合い、一歩前進を目指します！」 朝礼時の理念唱和实施。地域行事への積極的な参加を心掛けています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍となり、地域行事への参加が出来ていない状態となっています。 令和6年度は、以前開催していた3事業所合同の餅つき会を再開する予定です。また、感染症の流行状況にもよりますが地域行事への参加も再開していきたいです。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方からの介護についての相談、問い合わせを受けた場合は、各介護サービスの内容説明、関連機関への紹介など行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、近隣施設である第2ひじり園様とあじさい様と合同で開催する事によって様々な視点から意見交換を実施しています。 通常であれば、ご家族様にも参加して頂きますが、今年度は開催日を固定する事が出来なかったため出来ておりません。来年度はご家族様にも参加していただきたいと思っています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の運営についての不明点はすぐに問い合わせをさせていただいております。 また、地域包括支援センターと民生員の方にも運営推進会議に参加をいただき協力関係を築いております。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠は実施しておりません。 年2回の研修の確実な実施には、オンライン研修も活用しています。 身体拘束は行わない方針で日々のケアに取り組んでいます。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束と共に虐待についても同様に研修を行っています。また、職員同士での声掛けや見返りを行いながら対応しています。職員全体の精神・船体的負担の軽減の面から極力残業はなくし、業務改善にも取り組んでいます。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「本人主体のケア」を常に念頭に置き接する事が出来る様に、支援の在り方などミーティングや勉強会を通して学ぶ機会を作っています。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際には、本人様・ご家族様に分かりやすいように丁寧に説明を行います。時間はかかりますが、特に契約時にはしっかりと説明を行う事で安心感と信頼にも繋がると思っています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からは、面会時にご本人様の様子をお伝えすると共にご要望やご意見などお聞きしています。外部の方へは、地域運営推進会議を通して事業所の現状報告を行っています。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで伝達事項等の周知の徹底と、日常でも職員と広く会話をし困っている事がないか等尋ねる様に心掛けている。また、改善が必要な事は全体ミーティングとは別にリーダーミーティング(不定期開催)などで協議する。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、面談を実施。また、その都度職員との面談を行う事で、職員の状況を把握する様に努めている。職場の環境改善については、今一番力を入れている所です。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の要望には応えられる限りは対応して、働きやすさに繋がる様にしている。 採用時に求めている事は、業務へのやる気のみで、資格がなくても一から育成するという気持ちです。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月内部研修として各課題について学ぶ機会を設けている。情報収集の為、研修に参加したり、常に新しい情報を入手する様に心掛けています。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人のキャリアパス制度を活用し、人材育成に取り組んでいます。また、資格取得に関する手当もあり、学ぶ意欲を育てられるような環境作りを目指しています。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現段階ではコロナの影響から出来ていませんが、withコロナとして法人も動き出しており、人事交流を復活させる予定との事です。 グループホーム部会などの研修の参加も今年度は一度しかできませんでした。今後はもっと積極的に取り入れていきたいと思えます。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前は管理者が窓口になり、決定後は職員全体で入居者様の不安を払拭できるように顔合わせや面談を通して、少しでも早く馴染めるようにサポートしています。 ご家族様にも同様に協力頂き、初期の信頼関係構築に努めています。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様への説明も、ご本人様同様に不安がないように丁寧に分かりやすく説明する事を心掛けています。 入居者様を通じて、初期の信頼構築に努めると共に、ご家族様の要望に出来るだけ添える様に対応しています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や相談の時、ご本人様とご家族様の要望等を聴き、現在の状態を尋ねてホームに適しているかをまずはお話しさせていただきます。利用方法や必要であればほか施設へのご紹介も行っています。入居のご希望があれば申込書を記入してもらい対応しています。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームという名の通り、家だと思えるような家族のような関係を目指しています。一緒に生活をし、助け合っているという気持ちを大切にしています。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所による家族の隔たりをなくすためにも2ヶ月毎に入居の様子が分かるような写真が載った家族新聞を発行しています。また、面会時や電話連絡時には、必ずご本人様の状態をお伝えして、協力頂ける様にコミュニケーションも大切にしています。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔馴染の方が面会に来られることがあります。その際は、ご家族様に見せる顔とはまた違った表情をされるのでとてもうれしい事だと思います。特に制限は設けていませんが、キーパーソンのご家族様にご報告は行いトラブル防止にも努めています。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さまが自由に交流を持てるように、ユニット間の隔たりをなくしています。隣のユニットへお話しに行かれる方もおられます。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入所中に出来た関係を大切に、いつでも気軽に相談が出来る様に最後にお声掛けさせていただきます。また、近隣施設でお会いした時にも笑顔で挨拶を頂けるような関係を築いています。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人様の要望を踏まえたケアプラン作成に努めており、日常で引き出したご本人様の気持ちなどは記録や申し送りで残すことで、ご本人様との関わりに役立っています。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の把握は、ご本人様の話からはもちろん、ご家族様や面会に来た方とも話をすることで得られるものがあります。縫物などその方が得意なものをレクリエーションとして取り入れる事もあります。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人を大切にして、出来る事・できない事を職員全体で見極め、可能な限り出来るを維持するようにサポートしています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとりに担当を付け、担当を中心としてその人を思うケアを模索しています。カンファレンスでは、担当者以外の考えを広く取り入れその人のケアに活かしています。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日常生活の記録を行っている。職員全員が情報の共有を行い、統一したケアが行えるようにしている。また介護計画書の見直しや変更にも活用している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	長く続いた面会制限ですが、1月より緩和措置を取ることが出来る様になりました。また、外泊や外出の相談にも柔軟に対応できるようになり、ご家族様からは喜びの声も聞かれます。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホーム入所後も、デイケアに通われていた方が継続して利用する事もあります。馴染の場所を失うことなく、生き生きとして活動されています。近所に散歩や受診に行くときにお声掛けいただくこともあります。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	普段の状態をかかりつけ医に相談できるように、受診には看護師又は介護職員が付き添います。普段の状態を把握する事で、異変に早期に気が付くことが出来る様に連携を密に取っています。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師が、ほぼ毎日健康管理をしています。介護職員も入居者様の健康に気を配り、異変に気が付き、看護師へすぐに相談できるような関係を築いています。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	2週間に1度、施設間ミーティングが開催され、入院中の情報はもちろん、入院がない期間も病院の動向に気を配ることが出来ます。ソーシャルワーカーとも連絡を密に取り、情報交換をする体制が出来ています。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にも重度化についての方針を説明する場を設けています。また、実際に重度化により退居になる時にも、ご本人様をはじめご家族様に不安がないように、情報の共有と次のサービスへの円滑な移行をサポートします。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルの作成、周知を行っています。看護師指導の元、応急処置などの初期対応はもちろん、万が一の事が起きても対応できるように備えています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練を行っているが、地域との合同訓練は実施できていません。 自然災害に関しては、運営推進会議の時に関係者への協力依頼を行っている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会を通し定期的に意識付けを行うことで、入居者様への尊敬の念を忘れずに、一人ひとりを尊重して対応を行っている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に何か希望がないかなど問いかける様にしています。自己決定が難しい方に対しても、表情や態度から希望を汲み取る様にしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りご本人様のペースにあった生活が実現できるように心掛けています。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きなものを着て頂ける様に、手の届きやすい所に衣類を準備する等の工夫をしています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に関しては外部発注となっている為、好きなものへの変更は難しいが、様々なメニューで飽きのこない食事を取れている。 食器洗いなど手伝って頂ける方にはお願いし、一緒に行っています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外注の食事を使用しています。栄養などバランスの取れた食事を提供できています。職員も同じものを食べる事で、美味しい物を食べているか確認が取れる様に工夫しています。一人ひとりの状態に合わせて、食事の形態を変えています。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自力での口腔ケアを促すと共に、磨き残しがないか確認を行っています。歯ブラシ/スポンジブラシなど用いてその人にあった口腔ケアをしています。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在紙おむつを使用している人はいません。特に日中は、出来る限り全員トイレ誘導を行い気分よく排泄できるように心がけています。トイレの間隔が分かりにくい方は定時誘導を行い、訴えのある方はその都度トイレ誘導を行っています。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常的に運動を取り入れる事で活動量を増やすと共に、水分不足対策に飲み物など数種類用意して好きなものを飽きなく摂取できるように準備しています。便秘については看護師指導の元、緩下剤でのコントロールを行っています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴を楽しんでもらえるように入浴剤を各種準備しています。血流増進などの為にも浴槽への入浴を状態に合わせて出来る限り支援しています。また、清潔保持の為その日の状況に合わせて入浴を実施する事もあります。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個室は自由に休んで頂ける様にいつでも開放しています。気分や状態に合わせてご自身の好きな所で休息を取ることが出来ます。ベッド周りなどは常に清潔に保つことで、いつでも気持ちよくお休みに出来るようにしています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常勤の看護師を中心に服薬の管理を行っています。定期的な受診でもDrと相談しながら服薬調整を行って頂き、その人に必要な分の薬のみを処方して頂いています。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、集団レクリエーションの時間を設け、入居者様の毎日が楽しく輝いたものになる様に心掛けています。個別レクにも力をいれ、塗り絵などその人が楽しめるものを提供しています。 毎月のイベントも職員が試行錯誤し、日常とは少しだけ違う気分を味わっていただいています。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力を得て、外出・外泊に出る方もいらっしゃいます。難しい方は、散歩やドライブなどで外に出る機会を増やしています。 ご本人様の希望に沿って、散歩を実施する事もあります。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の希望を聞き、嗜好品の購入を行う事もあります。しかし、自由な買い物とは言い難いのも現実です。 移動販売の検討をしているところです。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人の携帯電話を所持している方が3名いらっしゃいます。特に制限は設けず、自由に通話できる状態を作っています。 今年は全員で年賀状を送りました。携帯電話未所持の方も、ご希望があれば電話の取次ぎを行っております。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	元々木造作りで温かみがある空間ですが、さらに季節を感じられるように掲示物は季節にあつたものを入居者様と一緒に作成しています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたテーブル数の為、全ての要望をかなえる事が出来ているかは分からないが、気が合うかどうかは見ながら席を決めている。 ソファ席もあり、特に自立の方たちは自由に使用されている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自室に入る物なら自由に持ち込みを許可しています。位牌を持ち込まれる方やずっと使っていたタンスを持ち込まれる方もいます。 また、ご自身の作品なども飾って楽しめる様に特に制限は設けていません。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内にはいたるところに手摺が設置されています。移動手段として、車椅子はもちろん歩行器などもあります。毎月、生活機能向上訓練の為、PT/OTとも連携を取り、その方に合わせた移動や訓練を行っています。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				○ ④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
			○	③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
			○	③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が		
			○	②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が		
			○	②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		